

第6回 国道343号笹ノ田地区技術課題等検討協議会の概要

1 日 時 : 令和8年10月7日(水) 書面開催

2 出席者
(委員)

南 正昭 岩手大学 理工学部 教授(座長)

井良沢 道也 岩手大学 名誉教授

藤原 俊夫 岩手県 県南広域振興局 土木部 一関土木センター所長

大澤 匡弘 岩手県 沿岸広域振興局 土木部 大船渡土木センター所長

高瀬 文明 岩手県 県土整備部 技術参事兼道路建設課総括課長



3 内容

【環境に係る文献の確認結果の報告】

- 自然環境の現状を把握・評価することで、適切な保全施策を講じることを目的に策定された「岩手県自然環境保全指針(以下、「保全指針」という)」より、現地状況から保全目標と方向を示した「優れた自然の保全区分」を確認した結果、第3回協議会で確認した整備方針案(現道南側を通過するバイパス:以下、「整備方針案」という)において、改変を避けるほどではないものの、自然環境の保全に万全を期する必要があることを確認。
- 保全指針における現地の植物群落の状況を評価した「生息・生育環境の評価」より、笹ノ田地区には植生自然度が高い群落が存在することを確認。
- 保全指針における希少野生動植物の生息・生育状況を評価した「種の評価」より、笹ノ田地区には希少な哺乳類、鳥類、両生類が生息している可能性があることを確認。
- 保全指針における「地形・地質・自然景観の評価」より、地形・地質、自然景観ともに笹ノ田地区の保全の重要度は低いことを確認。

【有識者へのヒアリング結果と調査方針】

- 保全指針の確認結果より、植物群落・哺乳類・鳥類・両生類の有識者へヒアリングを行った結果、鳥類については、整備方針案の地上の改変が想定される区間(明かり部)において、モニタリングを主とした現地調査が必要であることを確認。
- 植物・哺乳類・両生類も同様に現地調査は必要であるが、現地での探索を主とした調査であるため、詳細なルート検討後に調査することを確認。

4 次回協議会に向けた主な意見

- 鳥類の環境調査の実施について、了解した。

5 今後の検討の進め方

- 次回の協議会では、鳥類の環境調査結果の報告等を行う。